

# 日本アニメーション学会賞 2026

## 選考結果・贈賞式 のご報告

### ■日本アニメーション学会賞 2026：

『アニメ・エクスペリエンス 深夜アニメ研究の方法』

川口 茂雄 著（2024 年／創元社）

### ■奨励賞：

『キャラクターの顔は「顔」なのか ―キャラ顔認知の心理学的研究』

太田 碧 著（2025 年／博論社）

### 贈賞式

日時：2026 年 11 月 21 日（土）18:00～18:30

会場：新千歳空港国際線ターミナルビル 2F 会議室「ラベンダー」

※日本アニメーション学会 秋の研究集会との併催です。

### 選考委員（敬称略・五十音順）

アルト ヨアヒム（新潟大学 経済科学部 助教）※委員長

栗原 詩子（西南学院大学 国際文化学部 教授）

萩原 由加里（帝京大学 文学部 講師）

雪村 まゆみ（関西大学 社会学部 教授）

横田 正夫（日本大学 芸術学部大学院 非常勤講師）

【お問い合わせ先】 日本アニメーション学会事務局 mail: [secretariat@jsas.net](mailto:secretariat@jsas.net)

【主催】 **JSAS** 日本アニメーション学会

[www.jsas.net](http://www.jsas.net)

## ■ 贈賞理由

### 学会賞：川口茂雄著『アニメ・エクスペリエンス 深夜アニメ研究の方法』

川口茂雄著『アニメ・エクスペリエンス——深夜アニメ研究の方法』では、シリーズとしてテレビで深夜帯に放送されていた日本のカートゥーン・アニメーション、すなわち「深夜アニメ」と呼ばれるいくつかの作品について言語化しにくい側面を言語化することを試みている。

本書は、アニメを実写映画やマンガから独立した芸術として取り扱い、かつ深夜アニメを劇場アニメと区別したうえで、画面上のキャラクターの配置、16：9のアスペクト比がもたらした表象方法の変化、キャラクターが経験する「退屈」などについて、主に2010年代以降の深夜アニメを題材に緻密に、また説得的に論議している。さらに作品内に現れる乗り物はなぜ右から左へ進むのか、ピカソの『ゲルニカ』と魔法少女はどのような関係があるかといった、一見ささやかに見える部分が作品に映っている世界観に大きくかかわっていることを丁寧に論じており、我々読者および視聴者の作品の理解と解釈を進化させる。

本書は深夜アニメの研究への入門書であり、今後深夜アニメ研究を行いたいと考える研究者にとって必読書となるだろう。

紙面の都合で消化しきれなかった作品と言い尽くせなかった論点について今後のさらなる研究を期待し、深夜アニメ全体を概観し深夜アニメを定義するような今後の展開も期待したい。

以上の点を踏まえて、本書はアニメーション研究にとって貴重な貢献をなす長年の研究活動に基づく研究成果として高く評価できることから、日本アニメーション学会・学会賞選考委員会は2026年度、第13回日本アニメーション学会賞を贈るにふさわしいと判断した。

### 奨励賞：太田碧著『キャラクターの顔は「顔」なのか ―キャラ顔認知の心理学的研究』

太田碧氏著『キャラクターの顔は「顔」なのか——キャラ顔認知の心理学的研究』は、マンガ・アニメーションに登場するキャラクターの「顔」を対象として、認知心理学・社会心理学の方法を用い、その認知の特性を実証的に明らかにした意欲的な研究である。

私たちは、現実の人間とは大きく異なる目や鼻、輪郭をもつキャラクターを、ごく自然に「顔」として認識し、そこに魅力や性格などさまざまな印象を読み取っている。本書は、この身近でありながら十分に検討されてこなかった現象に着目し、人間の顔を対象として蓄積されてきた顔認知研究の知見をキャラクターの顔へと展開している。倒立効果、相貌特徴と印象、平均顔の魅力、順応効果などについて複数の実験を行い、リアル顔とキャラ顔の認知には共通する側面がある一方、キャラ顔に固有の特徴も認められることを具体的に示した点は、本書の重要な成果である。

本書はキャラ顔認知の本格的研究の端緒に位置づけられるものであり、その発達、学習など、今後検討すべき課題も多く残されている。また、本書が独自に作成した「オタク尺度」によって受容者側の要因を研究に取り込んだ点は興味深い。今後は、社会学やファン研究、文化・メディア研究等における「オタク」やアニメーション受容をめぐる研究蓄積とも接続することで、心理学的なキャラ顔研究をより学際的なアニメーション研究へと展開していくことを期待したい。

以上の点から、本書はアニメーション研究に新たな研究対象と方法を提示し、今後のさらなる発展が期待される研究成果であり、日本アニメーション学会奨励賞を贈るにふさわしい著作であると評価した。

## ■日本アニメーション学会賞について

「日本アニメーション学会賞」は、本学会の創立 15 周年記念事業として 2014 年に創設されました。アニメーションに関する学術的活動に携わる研究者を顕彰し、広くアニメーション分野における学術の振興に寄与することを目的としています。

「日本アニメーション学会賞」には、次の三つの賞があります。①「本賞」：発表者の経歴を問わず、アニメーション研究とアニメーション分野の学術の振興に寄与する優れた業績を顕彰します。②「奨励賞」：発表者によるアニメーション分野における最初の公的な研究業績（学位請求論文、共著書内の論文、書籍）であり、かつアニメーション研究とアニメーション分野の学術の振興に寄与する業績を顕彰します。③「特別賞」：上記の対象とならない、より幅広い学術的活動を顕彰します。

本学会がこの賞を設けることにより、アニメーション分野の学術研究の活性化を促し、その一層の発展に寄与することを心より願っております。今後もこの賞を本学会会員一同の力で支え育て、末永く発展させていきたいと考えておりますので、関係各位のご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

日本アニメーション学会会長 布山タルト

※歴代受賞情報等は、以下をご覧ください。

>> <https://www.jsas.net/academic-award.html>